

★ _____ ★
☆☆★ いわて マナビィ マガジン ★☆☆
☆☆ No.110 2016. 4. 22. ★☆☆

★ _____ ★
***** I N D E X *****

1. センター便り 『国庫委託事業の評価・検証に向けて』
2. 教振なう！ 『“情報メディア”に係る講師対応について』
3. 編集後記 ～ピエロが行く！～

★ _____ ★
1. センター便り 『国庫委託事業の評価・検証に向けて』

★ _____ ★
本県における地域づくりに係る事業「放課後子ども教室推進事業」や「学校支援地域本部事業」、更には社会教育・地域づくりの推進や地域コミュニティの再生・復興支援に係る「人材育成の研修事業」などは、国庫委託事業『仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業』を活用して実施しています。

この国庫委託事業を活用しての事業を行うにあたっては、今年度より事業の評価・検証を明らかにし、県及び市町村は年度末には文部科学省に報告することとなっています。そこで当センターでは、今年度より「事業の効率的・効果的な評価と検証のあり方に関する実践的研究（2か年研究）」に取り組み、市町村へ提案していくこととしております。当センターの研修事業への参加の際は、ご協力をいただくこともございますので、よろしくお願いいたします。

また、昨年度に引き続き国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員 市川重彦 先生をお招きし、「事業担当者のための評価研修会」を行います。事業評価の意義と手順や事業評価に使える簡単で便利なアンケート作成・集計システムの使い方を学ぶ第1回研修会は6月7日（火）に行います。今年度の事業評価の見通しを持ち、同様の悩みを持つ事業担当者同士の交流を図る機会としたいと考えています。

更に、事業の評価・検証を文部科学省に報告する直前の12月20日（火）には、第2回の「事業担当者のための評価研修会」を行います。こちらでは、事業報告書をまとめるための具体的な方法について学び、相談する機会する予定です。33市町村の皆様には、2回の研修会に是非ご参加いただき、また当センターからの情報発信及び研究発表に注目いただきたいと思います。

★ _____ ★
2. 教振なう！ 『“情報メディア”に係る講師対応について』

★ _____ ★

(教ちゃん) 今年度2回目のメルマガの配信となりました。今年度からの読者の皆さん。私のこと、覚えてくれましたか？

教育振興運動のマスコットアイドル、教ちゃんです！

(振ちゃん) 前号と同じノリだね・・・。

(教ちゃん) だって、まず知っていただかないと。

(振ちゃん) そうだね。特に新入生を迎える年度初めは大切だね。教育振興運動の全県共通課題「情報メディアとの上手なつきあい方」も昨年度どのように取り組み、どのような課題を残して今年度は何に取り組むのか・・・をみんなで共有することが大切だね。

(教ちゃん) 約87%の小中学校区が「情報メディアとの上手なつきあい方」に取り組んでいるのだものね。[H27実績]

(振ちゃん) ところで、その「情報メディア」に関する講師対応について、昨年度途中から変わってきているって知ってる？

(教ちゃん) どういうこと？

(振ちゃん) これまで「情報メディア」に関する講師をおこなってきた総合教育センターは先生対象の研修会に重点を置いて、保護者や地域の方対象の研修会は生涯学習推進センターが行うことになったんだ。

(教ちゃん) 教育振興運動として、保護者や地域をはじめとした5者の責任と役割を考えていく講話になるのね。

(振ちゃん) そうなんだ。児童生徒の「情報モラル教育」は学習指導要領にも書いてあるように学校の責任・先生の役割で、生涯学習推進センターは「子どもの実態を踏まえて、5者が課題解決にあたるためのお手伝い」が趣旨なんだよ。話し合いや活動につなげていくための講話になるんだ。

(教ちゃん) 「情報メディア」に関する啓発資料が『まなびネットいわて』に掲載されているので、参考にして欲しいわ。子どもに見せて、親子で「どう思う？」と感想を述べ合うだけでも、良い学びと話し合いの機会になると思うの。

★全県共通課題『情報メディアとの上手なつきあい方』啓発資料はこちら。

⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/zenkenmedia.html>

★ _____ ★
3. 編集後記 ～ピエロが行く！～

★ _____ ★

4月12日（火）、宮下奈都さんの「羊と鋼の森」が今年の「本屋大賞」に選ばれました。この賞は、本が売れない時代と言われる中、売り場からベストセラーをつくろうと書店員が自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選んで決定する賞です。これまでの大賞受賞は以下のとおりです。

- 2004年「博士が愛した数式」〔著；小川洋子〕
- 2005年「夜のピクニック」〔著；恩田陸〕
- 2006年「東京タワー 木と砂と、時々、オトン」(著；リリー・フランキー)
- 2007年「一瞬の風になれ」(著；佐藤多佳子)
- 2008年「ゴールデンランパー」(著；伊坂幸太郎)
- 2009年「告白」〔著；湊かなえ〕
- 2010年「天地明察」〔著；冲方丁〕
- 2011年「謎解きはディナーのあとで」〔著；東川篤哉〕
- 2012年「舟を編む」〔著；三浦しをん〕
- 2013年「海賊と呼ばれた男」〔著；百田尚樹〕
- 2014年「村上海賊の娘」〔著；和田竜〕
- 2015年「鹿の王」〔著；上橋菜穂子〕

本好きの書店員が勧める「今年イチ押しの本」。皆さんは、何冊読みましたでしょうか。恥ずかしながら、私はテレビや映画で見てばかりでした。さて、4月23日（土）は『子ども読書の日』です。子どもに「本を読みなさい」と言う前に、本を読む親の姿を見せたいものですね。「本屋大賞」でまだ読んでいない本を、読んでみませんか？



このメールマガジンは、県内小中学校、社会教育関係者及び生涯学習・社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無料で配信しています。ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。⇒ E-mail ; atu-satou@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターHP「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

左下の「発行物・刊行物」>「いわてマナビィマガジン」をクリック



発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口2-82-13）

編集：佐藤敦士